

京都大学教育研究振興財団助成事業
成果報告書

2024年 4月11日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会長 藤 洋作 様

所属部局 学術情報メディアセンター

職 名 教授

氏 名 緒方 広明

助成の種類	令和5年度・国際会議開催助成		
国際会議名	第14回学習分析知識に関する国際会議 The 14th Learning Analytics and Knowledge Conference (LAK2024)		
開催期間	2024年3月18日 ～ 2024年3月22日		
開催場所	国立京都国際会館(京都府京都市)		
参加者	総数 524名	内訳 国内110名、国外414名	
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版1枚字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()		
会計報告	事業に要した経費総額	28,161,597 円	
	うち当財団からの助成額	1,000,000 円	
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称) 京都MICE、電気通信普及財団	
	経費の内訳と助成金の使途について		
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
	旅費交通費(招待講演者4名分)	2,131,029	622,250
	会場・会議費(ハイブリッド通信費用)	5,431,155	377,750
	謝金	60,000	0
	消耗品費	279,190	0
	レセプション・エクスクーション	14,073,931	0
バンケット	4,678,575	0	
運営費	1,507,717	0	
合 計	28,161,597	1,000,000	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) この度は、LAK2024に助成を頂き、誠にありがとうございました。今回はアジアで初の開催であり参加者数も過去最高となりました。ありがとうございました。		



第 14 回学習分析知識に関する国際会議開催報告

The 14th Learning Analytics and Knowledge Conference (LAK2024)

団体名: LAK24 実行委員会

代表者名: 緒方広明

(京都大学学術情報メディアセンター 教授)

The Society for Learning Analytics Research (SoLAR) が主催する Learning Analytics and Knowledge Conference (LAK) は、学習分析 (Learning Analytics: 以下 LA) 分野における代表的な国際会議のひとつであり、毎年開催されている。14 回目となる今回はアジアで初めての開催となった。今回 (LAK24) は、テーマとして Learning Analytics in the Age of Artificial Intelligence (人工知能時代のラーニング・アナリティクス) というタイムリーなテーマが掲げられ、2024 年 3 月 18 日から 22 日までの 5 日間、京都市左京区京都国際会館において開催された。参加者数は 524 名であり、そのうち初参加者は 291 名であった。また出身国は 38 か国に及んだ。参加国で最も多かったのがアメリカ合衆国の 111 名で、日本 110 名、オーストラリア 64 名、ドイツ 37 名、オランダ 22 名と続いた。

今回の投稿件数はフルペーパーが 204 件、ショートペーパーが 112 件、デモ/ポスターが 184 件で、各部門とも前年度 (アメリカ合衆国テキサス州アーリントンでハイブリッド開催) を上回った。特筆すべき点としてデモ/ポスターが前年度の 71 件から 184 件となり過去最高となった。発表件数はフルペーパーが 66 件、ショートペーパーが 29 件、デモ/ポスターが 87 件、プラクティショナーズプレゼンテーションが 12 件であった。前半 2 日間はプレカンファレンスとして合計 25 件のワークショップ、ドクターコンソーシアム等が行われた。後半 3 日間はメインカンファレンスとして、毎日 1 件の基調講演とパラレルプレゼンテーションとポスターセッションが行われた。プレカンファレンス、メインカンファレンスとも口頭発表セッションでは、活発な議論が交わされた。運営会場となった京都国際会館側の担当者からも口頭発表後の活発な議論に感銘を受けた旨の報告があった。

具体的には、基調講演は以下の 3 名であった。

- Professor Mutlu Cukurova (University College London, United Kingdom)
The Interplay of AI and Learning Analytics: Potential, Pitfalls, and the Future of Education
- Dr. Kristen DiCerbo (Khan Academy, United States)
Using Artificial Intelligence to Enhance Human Intelligence
- Professor Stephen J.H. Yang (National Central University, Taiwan)
Generative AI and LLMs in Learning Analytics: Challenges and Opportunities

メインカンファレンス初日の午後 1 時から開催されたパネルディスカッションでは大野彰子氏 (国立教育政策研究所教育データサイエンスセンター長)、LAK24 のスポンサー企業である株式会社内田洋行 代表取締役社長大久保昇氏、京都大学緒方研究室開発のシステムが導入されている京都市立西京高等学校附属中学校教頭 宮部剛氏および生徒 2 名が登壇。質疑応答ではラーニングアナリティクス研究と実践について活発な議論が行われた。過去最高のポスター数となったポスターセッションは二部交代制でメインカンファレンス初日午後 5 時から 7 時までの開催となった。軽食が提供されたウェルカムレセプション会場で開催されたことも相まって、参加者が会場を埋め尽くし熱気あふれるセッションが展開された。セッション終了後も盛んな議論が閉館間際まで続いた。

また、会期中は、約 15 名のボランティアスタッフが受付業務、会場誘導、各セッションの運営のサポートを行った。ローカル実行委員としては参加者に京都を楽しんでいただくため、オスズの観光スポットをウェブサイトに掲載した。パンケットでは、鏡開きや舞妓の舞、琴演奏など、日本の文化を感じることのできる余興を提供した。次回の国際会議 (LAK25) は、2025 年 3 月 3 日~7 日にアイルランドのダブリンにおいて開催される予定である。